

発行所

札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部同窓会
TEL&FAX (011)706-5007
E-mail:furate@med.hokudai.ac.jp
http://www.med.hokudai.ac.jp/~alum-w/

編集人 田中 伸哉
発行人 浅香 正博

北大医学部同窓会新聞



「陽子線治療施設内観」

白土 博樹(57期)

CONTENTS

- (1) 会長再任のご挨拶……………浅香 正博
卒業生に贈る言葉……………笠原 正典
- (2) 平成25年度総会報告及び新入会員
歓迎会報告……………浅香 正博
新入会員を歓迎して……………浅香 正博
- (3) 新入会員挨拶……………山村 貴洋
第90期生(89名)名簿
平成25年度総会資料
- (4) 平成26年4月入学者(第96期生)
代表ご挨拶……………伊林 誠
平成26年4月入学者名簿(102名)
教授退任挨拶……………野々村克也
フラテ祭2014 9月開催
- (5) 春の襄章、叙勲
木村 清延 三宅 浩次 三宅 直樹
齊藤 弘
ズームアップ⑬
秋田大学学長に就任して-これまでとこれから-
……………澤田 賢一
- (6) 平成25年度医学研究科・医学部医学科各賞受賞者
田中 真樹 伊東 孝政 松野 誠夫
- (7) 平成25年度フラテ研究奨励賞報告
……………櫻木 範明
受賞の喜び
藤田 靖幸 芦立 嘉智 松島 将士
吉田 隆行
- (8) 新世紀の医学に向けて(24)……………白土 博樹
エルムの仲間達へ④……………中川 貴史
- (9) 理事会・評議員会報告
新役員、評議員・予備評議員名簿
- (10) 北大ほっかいどう同窓会の発足
北大連合同窓会からのお知らせ
告知板
- (11) 告知板
ご寄付の報告
同窓会費納入のお願い
同窓会費未納者に対する重要なお知らせ
- (12) 同窓会費の納付方法を変更いたしました
平成26年度「会員名簿記載事項確認」のお願い
新刊書紹介 ・ご逝去者
一面の写真説明 ・編集後記

会長再任のご挨拶



医学部同窓会会長

浅香 正博(48期)

本年3月に開かれた北海道大学医学部同窓会評議員会にて会長に再任されました。これから2年間会長業務に専心したいと考えておりますのでご支援をよろしくお願いいたします。現在同窓会で喫緊の問題となっているのは同窓会の財政基盤をしっかりとさせることです。私が会長に就任した2012年、数年間にわたって同窓会費の収入が伸びていなかったため、特別会計から一般会計へ920万円ほど繰り入れなければ、計画していた同窓会の事業に影響が出ざるをえない状況になっておりました。同窓会の収入は会費の徴収が全てですので、会費の納入状況がよくなるとすぐ赤字になるのは自明です。このような状況を二度と繰り返さないためには会員から会費をきっちり納入してもらうことに尽きると思います。調べますと卒後15年目までの納入率が芳しくないことが判明しました。これらの期の評議員の方々へ納入率を上げるようお願いしましたところ、若い世代は大変忙しく遅くまで働いているため、会費を納めに17時までには郵便局へ行くことは難しいとの意見が寄せられました。そのため、本年4月から支払い方法の多様化を図り、銀行口座への振り込みや自動引き落としに加えコンビニでも納付で

きるようにいたしました。また、学生時代より同窓会活動に親しんでいただくよう医学部入学と同時に同窓会に加入していただけるよう医学部執行部にご配慮を依頼したところ、快く承認していただき本年4月より開始になりました。同窓会では早速学生支援のための新たな予算を組んでおります。

これまで同窓会員の方々に同窓会への寄付をお願いすることはほとんどなかったのですが、財政基盤をしっかりとさせるために積極的にお願いすることにいたしました。10万円以上の寄付をいただくと医学部のシンボルマークの入った立派な楯を御礼として送ることに決定しましたので是非とも多くの方々からご寄付を医学部同窓会にお寄せいただきたいと思っております。

北海道大学医学部同窓会は現在6,400名もの会員を擁する大きな組織に発展しています。北海道大学医学部は創立100年まであと5年ほどになりました。これから様々な企画が計画されると思いますが、医学部同窓会もそれに合わせて医学部を支援していきたいと考えております。会員の皆様には、これからも一層のご支援をよろしくお願いいたします。

卒業生に贈る言葉

(平成25年度 学位伝達式告辞より要約)



医学研究科長・医学部長

笠原 正典(56期)

北海道大学医学部を卒業される90期の皆さん、卒業おめでとうございます。これから医師として活躍される皆さんの輝かしい門出を、医学部教職員を代表して心からお祝い申し上げます。また、ご来賓の浅香正博北海道大学医学部同窓会長には、ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

21世紀に入り、医学と医療の進歩は益々加速しています。生命科学の興隆と生命現象を解析する技術の飛躍的發展を背景に、医学はヒトの命の神秘と疾患の仕組みを次々と解明しています。医療現場では、精度の高い画像診断が一般化し、分子標的薬による治療、内視鏡・腹腔鏡を用いた低侵襲手術、副作用の少ない放射線治療などが用いられるようになっていきます。近い将来、個別化医療や再生医療が本格的に導入され、ロボット手術も一般化していくでしょう。その一方で、人口の高齢化と少子化が急速に進み、医療費や社会保障費の高騰を招いています。また、医学研究や医療に伴う倫理的問題、医師の地域偏在、診療科偏在等が大きな社会問題になっています。皆さんはこのような社会情勢の中で医師としての第一歩を踏み出すことになります。

しかし、医師には、医学・医療がいか

に進歩しようとも変わらず求められているものもあります。生命に対して畏敬の念を持ち、人間の尊厳を尊重し、悩める患者さんを心身ともに深く理解し、常に暖かい人間性をもって患者さんに接することです。皆さんはこれから医師として多忙な毎日を送ることになりますが、折に触れてヒポクラテスの誓い十箇条を想起して活躍してほしいと思っています。

北海道大学医学部は今年、創立95周年を迎え、すでに9,000名を超える人材が巣立ち、活躍の場は国内外に広がっています。皆さんは、これらの先輩たちに伍して、医療、医学研究の現場で活動を始めることになります。国民が皆さんに期待しているのは、「我が国の医療を支える指導的な臨床医」になることであり、「医学の将来を担う第一級の研究者」として活躍することです。北海道大学で学んだことを誇りに、高い理想と大きな夢を掲げ、その実現に向かって一步一步進んで下さい。そして、ともに医学を学んだ同級の友を大切に、母校を大切にしてください。皆さんが医師、医学研究者として未永く活躍されることを祈念いたします。(原文は大学院医学研究科・医学部HPに掲載)

平成25年度総会報告及び新入会員歓迎会報告

■平成25年度総会報告

平成25年度北大医学部同窓会総会が、2月10日(月)午後6時より札幌パークホテル「パールルーム」で開催されました。

会議に先立ち、昨年の総会以降にご逝去された84名の会員のご冥福を祈り、黙とうが捧げられました。

総会は評議員会議長の南 勝先生(40期)と副議長の工藤俊彦先生(46期)の進行により行われ、最初に浅香正博同窓会会長(48期)の挨拶があり、続いて議事録署名人として武田宏司評議員(56期)及び西原広史評議員(71期)が指名されました。

報告事項では、庶務報告として寺沢浩一副会長(54期)から、会員数の推移及び平成25年度の諸会議開催状況。事業報告として同副会長から、平成25年度に学友会を通して経費支援を行った医学展、2年次懇話会、4年次懇話会等の実施状況。櫻木範明フラテ研究奨励賞選考委員長(52期)から、平成25年度同賞選考経緯及び選考結果。編集報告として田中伸哉編集担当理事(66期)から、平成25年度に発行した同窓会新聞及び同窓会誌の編集・発行状況並びに同窓会ホームページリ

ニューアル状況。平成25年度会計中間報告として吉岡充弘会計担当理事(60期)から、会計収支状況及び会費納入状況がそれぞれ報告されました。

協議事項では、会則の一部改正として浅香会長から、本年4月より学生が在学中から同窓会に加入することに伴う、会則第5条の改正案について説明の後、審議了承されました。次に平成24年度会計決算として吉岡会計担当理事から、会計決算状況について説明の後、審議了承されました。次に平成24年度会計監査として桜田教夫監事(専7新)から、会計監査状況について説明の後、審議了承されました。

総会終了後に、平成25年度フラテ研究奨励賞授賞式が行われました。授賞式は選考委員の吉岡理事の司会により進められ、藤田靖幸氏(78期)、芦立嘉智氏(80期)、松島将士氏(会員2)、吉田隆行氏(会員2)の4名に浅香会長から表彰楯及び研究奨励金が授与され、お祝いと激励の言葉が述べられました。

■第90期新入会員歓迎会

総会に引き続き、午後7時より札幌パークホテル「エメラルド」にて第90期

新入会員歓迎会が開催されました。医師国家試験を終えたばかりの新入会員44名と同窓会員40名が参加しました。

歓迎会は西原広史先生(71期)と西田竜太郎先生(73期)の司会により進められ、最初に同窓会長の浅香正博先生(48期)から「永い歴史をもつ北海道大学医学部同窓会は皆さんの入会を心から歓迎したいと思います。いろんなところで先輩方が世話してくれると思いますので、思い切って頑張ってください」と歓迎の挨拶がありました。次に医学研究科長・医学部長の笠原正典先生(56期)から「同窓会をぜひ大事にしてほしい。北大で学んだ誇りを胸に、自信を持って医師としての第一歩を力強く踏み出してほしいと思っています」と挨拶がありました。続いて三浦旭先生(28期)からは「北大のフロンティア精神を堅持して、頑張ってください」という激励のお言葉と乾杯のご発声があり開宴となりました。

会は和やかな雰囲気の中、各テーブルでは新入会員と先輩会員との交流がみられ、新入会員を代表して、山村貴洋君は「夢や希望、90期生としての誇りを胸に、北海道の医療を、日本の医療を担っていく者の一員として、初心

を忘れることなく、誠心誠意、努力していきたいと思っています」と力強く宣言しました。ご来賓の先輩会員からのスピーチも行われ、齋藤和雄先生(35期)からは「大いに成長して、立派な研究者、臨床家になってほしい」、金田清志先生(38期)からは「やさしい人道的な配慮ができるように学んでください」との暖かい励ましがありません。また、本間研一先生(47期)はドイツの学生団体の強い絆と同じように、90期生・同窓会員も生涯続く絆を築くことを願い、「O alte Burschenherrlichkeit!」の力強い歌声を披露してくださいました。

後半の余興では、平成25年度フラテ研究奨励賞受賞者4名の先生方の「世界にひとつだけの花」の爽やかな歌声が響き渡りました。

池端隆先生(27期)による閉会の乾杯の後、歓迎会直前に任せられたとは思えない海老沼翔太君の堂に入った前口上に続いて、参加者全員による「都ぞ弥生」の大合唱で会場が一体となり、歓迎会は終了しました。



新入会員代表 山村貴洋君の挨拶



金田清志先生(38期)のスピーチ



本間研一先生(47期)のスピーチ



池端隆先生(27期)による閉会の乾杯



海老沼翔太君による前口上



全員で「都ぞ弥生」の大合唱

新入会員を歓迎して

医学部同窓会会長 浅香 正博(48期)



医学部90期の皆さん、北海道大学医学部同窓会は皆さんのご入会を心より歓迎いたします。医学部同窓会には90年を超える歴史があり、約6,400名もの会員から成り立っております。同窓会が隔年ごとに発行している同窓会名簿や同窓会誌を一覧するとこれから歩み始める君たちの医師としての人生をすべて鳥瞰することができますので、一度はゆっくりと読まれる機会を持つことをお勧めします。

君たちは6年間にわたる医学部での学習を終え医師になられたことで、心の中は希望に満ち満ちていることと拝察いたします。医師という職業は、患者と直接向き合いながらその病気を治していくことを目的としています。したがって、医師になったと同時に他の職業にはない大きな責任を負うことになるのです。学生時代は自分の評価を自分で行うことができましたが、これからは自分で評価できる部分は少なく、

患者や医療スタッフなど第三者によって評価されることが多くなります。一般社会も厳しい目を持って君たちを見つめることでしょう。患者の命を預かる重要な職業ゆえに、大きな義務も生じているのです。このような重い職務ゆえに患者が良くなって退院していくときなど他の職業では考えられないほどの達成感を感じることができます。

私は、昭和47年に医学部を卒業した48期生で卒後40年を越えましたが、医師に成り立てのころの何もわからずおろおろしていた時代のことは実に良く覚えています。最初から何でもできる人などいないので、一生懸命卒後研修に励んでほしいと思います。君たちは大きな希望と目標を持って医師として

の長い歩みの一歩を記し始めましたが、どの分野に進まれても患者から信頼される医師になってほしいと心より願っています。

北海道大学医学部同窓会は、入会された90期の皆さんの発展と飛躍を心から期待し、できる限りの支援をいたしたいと考えております。なお同窓会の活動はすべて同窓会員から集めた同窓会費で賄われていることを忘れないで下さい。今年からコンビニからも支払いができるようになりましたので、毎年の入金をくれぐれも忘れないようお願いいたします。

新入会員挨拶



山村 貴洋(90期)

第90期生89名を代表いたしまして一言挨拶申し上げます。先日はお忙しい中、私達90期生のために盛大な北大医学部同窓会新入会員歓迎会を開催して頂き、誠に有難うございました。90年もの歴史ある北大医学部同窓会に、新たに仲間入りできたこと、心より嬉しく思います。

私達90期生は89名とやや少数ではありますが、道内各地を含め全国津々浦々から集まった、非常にバラエティーに富んだ集団となっております。

私達はついに大学6年間の集大成とも言える医師国家試験を終え、4月から社会人一年目として医療の現場に立つこととなります。今までの学生の病院実習とは異なり、一人の人間の命を直接扱うことによる、多大なる責任感を背負うこととなります。それについて皆それぞれ不安を抱えていることと思います。しかしながら卒業を迎えた今思うことは、医師という職業ほどやり甲斐のある素晴らしいものはないということです。私自身今まで数多くの

方々にお世話になり、また感動を与えられてきました。これからは自分達が社会に還元できるよう誠心誠意努力すると共に、北大出身者という看板を背負い、後輩達に感動を与えられるよう北海道や日本の医療を担っていく所存です。

北大医学部は創立90周年を迎え、学友会館フラテが建設されました。さらに近年では陽子線治療施設が新たに稼働し始めるといった、北大医学部にとって歴史的な瞬間を迎えました。このように古くからの伝統を残しながらも、目まぐるしく急成長を遂げている医学のフロンティアとして母校が新たに生まれ変わっていくのは大変誇らしいことです。また、その記念すべき歴史的瞬間を間近で目撃できたと同時

に、その記念すべき90期生であるということに私達は大変誇りを抱いております。入学から卒業に至るまでの6年間、お世話になった恩師の先生方、大学関係者の皆様、家族、患者の皆様、その他お力添えを頂いたすべての皆様に心より御礼申し上げます。またこれから先、先輩の先生方につきましては色々な所でお目にかかり、またお話を聞かせて頂くことが多々あるかと思っております。そのような折には是非、先輩方の厳しくも温かいご指導ご鞭撻の程、宜しく願いいたします。

最後になりましたが、諸先生方のご健康と一層のご活躍をお祈りし、御挨拶とさせていただきます。

第90期生(89名)名簿

平成26年5月31日現在

会員氏名	出身校	勤務先	会員氏名	出身校	勤務先
赤田 有香	釧路湖陵	函館中央病院	千葉 雅尋	旭川東	帯広厚生病院
東 亮太	札幌南	帯広厚生病院	辻 重人	日比谷	東京大学医学部附属病院
阿部 菜月			土田 拓見	桐朋	旭川赤十字病院
天野紗緒理		砂川市立病院	常田 慧徳		
在原 房子	札幌北	北海道大学病院	寺尾 英将		
伊澤 雄太	私立開成	都立墨東病院	得居 龍	愛光	淀川キリスト教病院
石山 浩之	北嶺	北海道医療センター	永井 友梨	東京学芸大附属	聖隷浜松病院
今本 鉄平		市立旭川病院	仲川 心平	札幌北	KKR札幌医療センター
入江 勇旗	土佐	福岡和白病院	中島由里絵		
氏原 匡樹		倉敷中央病院	中野 康弘		
海老沼翔太	洛南	天使病院	中村 昌路		
大塚勇太郎			中本 裕紀	札幌南	日鋼記念病院
大橋 慶太			成田 学史		
押野 智博	駒大苫小牧	釧路労災病院	西浦 美穂		川崎市立川崎病院
垣本 烈			西尾 卓哉	北路中・高	砂川市立病院
葛西 健人	栄光学園	北海道大学病院	西野 瑛理		
片山 淳仁			蛭川 慶太	北嶺	北海道大学病院
金子 直哉	札幌西	天使病院	丹羽 弘貴	東海	帯広厚生病院
川上 歩	東京学芸大附属	国立国際医療研究センター	比嘉 綱己		
川崎 怜子			平石 卓也		
北潟谷 隆			房田 卓也	札幌北	製鉄記念室蘭病院
北原あゆみ	松本深志	北海道医療センター	堀井 洋志	県立千葉	市立函館病院
木村弘太郎			堀口 美香		
栗原 梓			増田 真吾	北嶺	長崎大学病院
後藤 健	札幌国際情報	北海道大学病院	町野 文規		
坂入 あい	札幌南	市立旭川病院	松本 論		
佐治 花衣	帯広柏葉	勤医協中央病院	水口 賢史	札幌南	市立函館病院
佐藤 行真	札幌南	北海道大学病院	村西 雄貴		
佐藤 一紀		王子総合病院	本江 勲充	小樽湖陵	勤医協中央病院
佐藤 友哉	札幌南	苫小牧市立病院	森下 優	洛南	岸和田徳洲会病院
澤谷 亮佑	札幌北	北海道大学病院	森島 稜		
東海林 静	小樽湖陵	国立国際医療研究センター病院	森永 大亮	札幌西	KKR札幌医療センター
白鳥 里佳	札幌南	NTT東日本札幌病院	安田 尚史		
鈴木なつめ	晃華学園	東京大学医学部附属病院	山内 裕貴	札幌北	KKR札幌医療センター
須藤 大智	札幌北	帯広厚生病院	山村 貴洋	北嶺	釧路労災病院
須野賢一郎	札幌光星	市立函館病院	山本 祥太	帯広柏葉	天使病院
則内 友博			横田 隼一	兵庫県立長田	砂川市立病院
関崎 知紀			横山 竜也	海城	市立旭川病院
関谷 翔	札幌東	手稲溪仁会病院	良川 大晃	海城	湘南厚木病院
五月女慧人			吉田 拓人	札幌北	聖路加国際病院
副島 崇旨	ラ・サール	砂川市立病院	吉田 雄亮	釧路湖陵	市立釧路総合病院
高島 謙	旭川東	北大大学院医学研究科	吉村 大	札幌西	苫小牧市立病院
高橋 承吾	帯広柏葉	帯広厚生病院	米田 和樹		
竹山 脩平	函館ラ・サール	北海道大学病院	早稲田紘士	岐阜県立加茂	岐阜県立多治見病院
千葉 活		市立小樽病院			

平成25年度総会資料

平成24年度北海道大学医学部同窓会会計収支決算報告

収入の部 平成25年3月31日

項目	予算額	収入済額	実行率(%)
会費収入	19,500,000	17,814,000	91
会費収入	19,500,000	17,814,000	91
事業関連収入	160,000	64,000	40
広告収入	150,000	60,000	40
販売収入	10,000	4,000	40
雑収入	101,000	153,084	152
利息収入	1,000	550	55
保険事務費	100,000	152,534	153
特別収入	0	9,200,908	—
特別収入	0	9,200,908	—
当年収入	19,761,000	27,231,992	138
前年繰越金	550,000	227,372	41
収入合計額	20,311,000	27,459,364	135

支出の部

項目	予算額	支出済額	実行率(%)
事業費	12,135,000	12,184,882	100
総会・新入会員歓迎会	800,000	941,343	118
新聞・名簿印刷費	5,200,000	5,085,097	98
通信運搬費	2,100,000	2,114,232	101
記念品費	210,000	248,280	118
学友会助成金	1,600,000	1,600,000	100
同窓会ホームページ経費	60,000	135,450	226
名簿管理等プログラム	100,000	0	0
研究助成	2,065,000	2,060,480	100
総務費	8,020,000	8,303,904	104
職員給与費	4,000,000	4,522,953	113
諸保険事業主負担	950,000	947,336	100
諸謝金	100,000	0	0
会議費	150,000	272,988	182
渉外費	50,000	17,400	35
旅費交通費	150,000	175,620	117
印刷製本費	2,000,000	1,938,935	97
通信費	200,000	335,570	168
消耗品費	200,000	78,402	39
手数料・広告料	20,000	14,700	74
備品購入費	200,000	0	0
予備費	100,000	50,000	50
当年支出額	20,255,000	20,538,786	101
収支差額	56,000	6,920,578	(繰越分)

平成24年度北海道大学医学部同窓会特別会計報告書

平成25年3月31日

銀行名	預金の種類	平成23年度末(24.3.31)の預金額	平成24年度利息	平成24年度末(25.3.31)の預金額
三菱UFJ信託銀行	定期預金	9,527,517	2,294	9,529,811
三井住友信託銀行	定期預金	10,117,929	3,230	10,121,159
北洋銀行	定期預金	3,041,724	1,262	3,042,986
北洋銀行	普通預金	182,639	32	182,671
合計		22,869,809	6,818	22,876,627

銀行名	預金の種類	平成23年度末(24.3.31)の預金額	平成24年度利息	解約受取額(25.2.13)
みずほ信託銀行	定期預金	9,199,257	2,491	9,201,748

備考／平成25年2月13日解約、一般会計に繰り入れ(9,200,908円)
 ※一般会計繰り入れ額(9,200,908円)＝解約受取額(9,201,748円)－振込料金(840円)

平成24年度会計監査報告書

北海道大学医学部同窓会
 会長 浅香 正博 殿

平成25年4月11日、平成24年度北海道大学医学部同窓会会計収支決算状況の監査を慎重に実施した。監査の結果、出納簿および関係書類の整備、並びに特別会計の預金等の会計処理は、適正かつ正確に行われており、平成24年度の北海道大学医学部同窓会の会計処理は、決算書通り正当であると認めた。

平成25年4月11日

監事 桜田教夫
 監事 小山 司

平成26年4月入学者(第96期生)代表ご挨拶



伊林 諒

第96期生入学者102名を代表してご挨拶申し上げます。

今年度から入学と同時に北海道大学医学部同窓会に入会させていただくことになりました。入学したばかりでまだ実感がわかりませんが、すでに自分が伝統ある北海道大学医学部同窓会の一員であると思うと、喜びとともに強い責任を感じます。

私たち102名は、多くのライバルたち

との厳しい競争を乗り越えて晴れて北海道大学医学部医学科に入学することができました。それと同時に、自らの一生を医療に捧げることを決める、ある種の職業選択をしたと思っております。医師という職業は決して楽なものではありません。また、医師には専門的な知識や技術だけではなく、幅広い教養や高い倫理観も求められます。そのような、いわば「人間力」は、人と

の関わりあいの中で磨かれていくものではないかと思えます。大学生活では全く新しい人間関係が形成されます。私自身もすでにたくさんの人と出会いました。これから過ごす6年間の中でかけがえのない友人や、目標とする先輩、師との出会いがきっとあるでしょう。そのような出会いの一つ一つを大切に、医師を目指すのに必要な「人間力」を育みながら、充実した6年間を

過ごしたいと思っております。大学生活を送るにあたって、北海道大学医学部同窓会の先輩方にはたびたびお世話になることと思いますが、その都度はどうもよろしくお願いいたします。

最後に、これまで私を育ててくれた両親に感謝するとともに、よき医療人になれるようにこれから努力してまいりますことを誓って、ご挨拶とさせていただきます。

平成26年4月入学者名簿(102名)

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
縣 優	北嶺	大坪 琴美	札幌南	木村 美月	札幌南	高桑 佑佳	旭川東	奈須 澁典	札幌北	古川 貴啓	札幌南
審 一範	大阪星光学院	大野修吾郎	札幌南	倉井 毅	栃木県立宇都宮	高野 雄大	岩見沢東	西村 一樹	岩見沢東	細川 智加	札幌南
蘆田 一晟	旭川東	岡村 一輝	釧路湖陵	小林 礼和	栄光学園	高橋 直希	北嶺	西山 剛史	愛光	牧野竜太郎	札幌南
東 悠太	札幌南	小川 鴻基	札幌北	酒井 碧	札幌聖心女子学院	田口 真凜	桜蔭	能登原奈都子	札幌南	松木田 瞭	ラ・サール
石黒未流来	セントヨゼフ女子学園	小澤 健人	筑波大学附属駒場	坂本 想太	札幌南	田嶋 晋弥	駒場東邦	萩原 悠斗	札幌北	宮石 陸	北嶺
石橋幹之介	小樽湖陵	小野 康平	岩見沢東	坂村 颯真	新潟県立新潟	田中 健太	札幌南	畑 悠佑	栃木県立宇都宮	村上 武志	大阪星光学院
伊丹 久実	宮崎西	鹿子島成充	上智福岡	迫田 賢人	甲陽学院	田中 友貴	札幌南	波多野 凌	東海	森本 純平	東京都市大学附属
井田 優子	新潟県立新潟	梶 琢朗	愛知県立旭丘	佐藤 圭	札幌北	千葉 馨	青森県立八戸	服部 晶人	土佐	八重 敬介	大分豊府
市川 和英	北嶺	片野 瑠生	北嶺	佐藤 知哉	札幌南	辻井 鴻	修猷館	濱津 辰吉	釧路湖陵	山川 光哉	仙台第二
伊藤 駿	東海	片山 祐	麻布	篠原 陸斗	札幌南	對馬 峻太	札幌南	廣瀬 陽俊	ラ・サール	山下 貴大	東海
伊藤 大貴	恵庭南	片山 萌絵	札幌北	清水香陽子	神戸女学院	東條 真有	上海B I S※	備仲 将	函館ラ・サール	山廣 晴菜	帯広柏葉
伊藤 翼	札幌北	勝尾 知尋	札幌南	白井 裕介	清水東	内藤 貴仁	千葉県私立市川	福島 太郎	帯広柏葉	山本 史徳	北嶺
伊林 諒	帯広柏葉	勝山 皓平	新潟明訓	杉木 良平	札幌東	中川 恵	立命館慶祥	福田 峻一	久留米大学附設	柳町 祥太	明治大学附属明治
上野 南帆	小樽湖陵	加藤憲士郎	函館ラ・サール	鈴木 喬之	旭川東	永井 憲嗣	函館ラ・サール	福田 雅之	小樽湖陵	結城 浩考	富山県立富山中部
梅本 樹	札幌北	加納 裕太	北嶺	住田 無限	函館ラ・サール	中村 春菜	札幌南	藤崎 瑠子	遺愛女子	横山 慎	日本大学
大河内教充	札幌南	鎌田 凌平	札幌南	関 宏樹	岡崎	中村 祐哉	札幌南	伏津建太郎	北嶺	若林 央樹	北嶺
大田 光貴	旭川東	川上翔太郎	埼玉県立浦和	関戸 貴大	大麻	永山凜太郎	青雲	藤畑 堅大	札幌平岸	渡辺清太郎	聖光学院

※上海BIS(上海ブリティッシュ インターナショナル スクール)

教授退任挨拶



腎泌尿器
外科学分野

野々村克也
(51期)

北海道大学を辞するにあたり、長年本学大学院医学研究科・医学部、北大病院、腎泌尿器外科学教室の皆様これまでお寄せいただいたご厚情にお礼申し上げます。

昭和43年、18歳で北海道大学医学進学課程に入学してから今迄の46年中42年間を本学のキャンパスで過ごしてきましたが、受け入れて育ててくれた懐の深い医学研究科・医学部には心より

感謝申し上げます。卒業後、泌尿器科に入局しましたが、当時の辻教授に挨拶した時が初対面??であったような気がします。そんなスタートでしたから、聞くもの・見るもの初めてで、まさに砂漠が水を吸収するが如きに研修したような気がします。医師2年目は苦小牧市立病院で研修しました。その後は旭川医科大学の助手として1年勤務し、診療だけでなく男性腎不全患者の性機能についての研究にて文部省の若手奨励科学研究費を獲得しましたが、非常勤医員として北大病院に戻りました。腎移植患者の手術前後の下垂体一性腺の内分泌動態について検討し、助手になると同時に博士号を取得することが

できました。その後、ポスドクでアメリカNIHに留学して副腎ステロイド代謝の研究をまとめ、帰国後も尿道下裂や性分化疾患を中心に診療・臨床研究を行っていきました。

教授昇任時は大学の独立法人化と初期研修の導入が重なり、我々の教室もその影響は大きく、新入医局員が10年で25名程度と減少しましたが、一人一人の学問に対する意識は高く博士は10年間に28人輩出することができました。教室のテーマである小児泌尿器科・泌尿器腫瘍学・神経泌尿器排尿機能・腎移植血管外科・更には近年急速に発展しつつある泌尿器内視鏡手術のそれぞれの領域で多くの泌尿器科医が育ち、

日本の泌尿器科をリードすべく、そのパワーを維持できて教室を離れることができると思っております。加えて、個人的な目標の1つとしていた学会活動の日本泌尿器科学会総会を主宰することで、教室員共々今までの活動の総括、一区切りが成ったと思えます。

最後に、私個人・腎泌尿器科外科学教室と一緒に支えてくれた医学研究科・医学部の皆様、多くの教室員に重ねて感謝申し上げます。今後は、外から北海道大学・我が教室の発展を見守りたいと思います。北海道大学医学部同窓会の皆様のご健勝・ご活躍をお祈り致します。

フラテ祭2014 9月開催

フラテ祭2014を、9月27日(土)に開催いたします。

フラテ祭は、平素からご支援をいただいております関係各位と医学部の親睦をさらに深め、医学部の現状

を見ていただくことにより今後の抱負や課題を認識していただくための場として、2007年9月に第一回目を開催いたしました。

第八回目を迎える本年度も、北海

道大学ホームカミングデーと同日開催いたします。北大医学部の変化・革新をお伝えしつつ、肩肘張らない楽しい「祭」となるよう、準備を進めております。

詳細につきましては、同窓生の皆様方へは6月下旬頃改めてお送りするご招待状にて、お知らせいたしま

す。ふるってのご参加をお待ち申し上げます。

フラテ祭実行委員会事務局
TEL: (011) 706-5012
FAX: (011) 706-7855

日 時: 2014年9月27日(土) 午後～
場 所: 北海道大学医学部/フラテ会館

春の褒章、叙勲

藍綬褒章受章

北海道中央労災病院
名誉院長

木村 清延
(46期)

瑞宝中綬章受章

札幌医科大学
名誉教授

三宅 浩次
(34期)

瑞宝小綬章受章



札幌通信病院
名誉院長

齊藤 弘
(42期)

「叙勲にさいして」

平成26年春の叙勲にさいし、拝受の栄に浴し、誠に光栄なものと感激しております。これもひとえに、関係する皆様方の心温かいご指導ご高配の賜物と感謝いたします。

私は、大学卒業後、北大病院にてインターンを修了し、ご就任したばかり

の白石忠雄教授が主催する第三内科に入局、直ちに、基礎医学・癌研病理部門（小林 博教授）の大学院生となりました。学位修得後、血液悪性腫瘍の診療に従事し、白石教授ご退官と同時に、大学を離れ、愛育病院内科医長、函館中央病院副院長を経て、札幌通信病院（旧札幌南通信病院）副院長に就任いたしました。

通信病院では、内科医として、また、病院管理と郵政職員の健康管理を担当し、東京通信病院センター長を経由し、札幌通信病院院長として勤務。満68歳で退職し、名誉院長となりました。その間、多くの先輩の温かいご指

導と、同輩・後輩のご協力で、大過なく過ごすことが出来ました。また、職務優先の私に、家族は黙ってついてくれました。数回の転身赴任があり、特に家内の支援にはなんと行って感謝して良いのか判りません。

自分では、すでに引退し、閑かに生活していたつもりが、一躍、光を浴びることになり、戸惑っております。さらに、一層の精進を求められているものと思います。

これからもよろしく、お願いいたします。

旭日双光章受章

元北海道医師会
副会長

三宅 直樹
(41期)

本年5月16日旭日双光章の受章の栄に浴しました。

私は一介の勤務医でしたが、上司

の命で医師会活動を始めることとなりました。昭和62年より北海道保険医会常任理事・副会長を経て、平成6年北海道医師会常任理事となり、平成25年に退任するまで、主に医療保険関連部門の担当をして参りました。この間診療報酬の審査にも携わり、行政の指導監査の立会にも殆ど参加しました。この経験により、医

師の医療(医学的な事項は除く)に対する認識不足を痛感し、保険医療についての啓発講演も100回を超えました。この講演は今後も北海道医師会が続けていくと考えています。国民が健康に過ごすためには、地域医療の充実が基本となることは言うまでもありません。今までも対策は講じられ実行されてはきましたが、医療

提供側の責務と考えられ、関係各位の更なる取り組みが期待される所です。地域医療に対する活動に対して叙勲に拝しましたが、推薦いただいた北海道医師会並びに私を支えてくれた方々に感謝の意を込めて挨拶の言葉とします。

ズームアップ[®] 秋田大学学長に就任して —これまでとこれから—

秋田大学学長 澤田 賢一(52期)



家内とともに吹雪の東苦小牧港を出航した時のことを思い出します。平成14(2002)年1月3日。岸壁を離れたのは午後7時でした。翌4日早朝、秋田港に着。外は凍っていましたが積雪はほとんどなく、北国とはいえ札幌とは違った土地柄を感じながら車を走らせました。アパートの駐車場に残っていた雪を、車の鼻先で除雪しようとしたらバキッと音がしてバンパーが割れました。雪が硬い。当日のうちに医学部長に挨拶のため病院駐車場へ。また雪の中に車の鼻先から入ろうとして今度はナンバープレートが落ちました。

北海道大学(北大)医学部を昭和51年(1976年)に卒業して、第二内科に入局しました。52期です。現在北大に残っている同期には安田和則君、福田諭君、櫻木範明君、瀬谷司君がいます。北大の外では高桑雄一君が東京女子医科大学の医学部長として頑張っています。卒業当時、第二内科(中川昌一教授)には糖尿病、内分泌、膠原病、血液、腎臓、消化器、感染症のグループがありました。伊達赤十字病院に2年間出張後、専門として血液学を選びました。私を入れて3人だけのグループでしたが、次第に仲間が増えていきました。

小池隆夫教授の時代に、HIVブ

ロック拠点病院の内科系委員長や卒後臨床研修プログラムWG委員長を拝命しました。この時の活動を通して教室以外の多くの先生とも友情を育むことができました。その時の盟友の一人、近藤哲先生を平成23年に失いました。合掌。

さて、秋田大学です。平成13年、秋田大学第三内科(血液、腎臓、膠原病内科学)の三浦亮教授が学長に就任。私はその後任として教室を預かることになりました。

教室には18人の仲間が残っており、温かく私を迎えてくれました。そのうちの4人が現在、学内外で教授として活躍しています。如何に優秀な人材が揃っていたかご想像できると思います。おかげで平成16年から始まった卒後臨床研修必修化にもなんとか耐えつつ、地域医療と研究、教育を両立していくことができました。平成24年4月、医学部長に就任しました。任期中は教育に力を入れたつもりです。昨年10月に第75回日本血液学会を札幌で開催しました。この時も教室員がよく頑張ってくれました。医学部長は2年間でしたが、この期間に他の学部の教職員とも親交を深めることができました。秋田大学学長に就いたのは、この4月からです。

秋田大学は1949年、秋田師範学校

(1878年設立)、秋田青年師範学校(1944年設立)、秋田鉱山専門学校(1910年設立)を包括して設置された大学です。学芸学部(後の教育文化学部)と鉱山学部(後の工学資源学部)の2学部でしたが、1970年に医学部が新設され、3学部体制となりました。ちなみに私は秋田大学医学部の第一期生と同じ卒業年ということになります。今年、医学部は38期生を世に送り出しました。これまでの卒業生は3,608名、うち60余名が学内外で教授として活躍しています。

秋田大学はこの4月から、資源学における世界のハブ大学を目指して国際資源学部を新設し、再編した教育文化学部、理工学部および医学部とともに4学部体制として新たにスタートしました。すべての専門分野の深化(進化)はもちろん、新学部を軸に留学制度の充実、授業の完全英語化、カウンスル形式の学部運営などを盛り込んだ一大改革であり、秋田大学にとっては新たな挑戦でもあります。キャンパス内では、23か国から200名を超える留学生の皆さんが、勉学に励んでいます。豊かな自然の四季の移ろいが、そしてここ秋田に住む人々の豊かな人情が、留学生生活を実りあるものにしてくれるはず。国際資源学部を「回転

軸」として初年次教育の充実やグローバル化に向けて、一気に邁進していきたいと考えています。

秋田県の人口減少率は日本で第一位です。現在104万人ですが2040年には70万人まで減少すると推定されています。また2035年には高齢者の人口比率が全国で初めて50%を超えると予想されています。このように少子高齢化の先端を行く秋田ですが、ここに育つ子供たちは「学力日本一」と評価され、まさに秋田の夢をつなぐ資源となっています。伝統のある初等中等教育に加え、新たな高等教育の展開を目指していきたいと考えています。

国立大学は今、グローバル化とイノベーション創出そしてガバナンス改革を通して、日本を再興するためのエンジンとしての役割が求められています。地方の国立大学として地域に根ざすのは勿論、研究面でも世界を見据えつつ、したたかに業績を上げていきたいと思っています。原稿を書かせていただく機会をいただき、感謝しております。ひと味違う「北の大地」、秋田。皆様のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成25年度フラテ研究奨励賞報告

選考委員会委員長
櫻木 範明(52期)

フラテ研究奨励賞は毎年の12月に公募することになっており、平成25年度も昨年の12月に公募した結果、11名の応募がありました。

選考は、5名の委員が申請書類を基に事前審査を行い、本年1月22日(水)に開催した選考委員会において、研究業

績、研究計画の発展性等について多様な観点から審査を行った結果、4名を受賞者として決定しました。

授賞式は、本年2月10日(月)に札幌パークホテルにおいて執り行い、浅香正博会長から表彰楯及び研究奨励金が贈呈されました。

本賞は、医学部同窓会の若手会員(応募の年度末で40才未満)に対し、創造的研究の育成に資することを目的に創設され、平成15年度の第1回から数えて第11回となる今回の受賞者を含めてこれまでに43名の方々を顕彰し、その多くが受賞後も期待どおりの研究業

績を挙げています。

今後も、医学研究の発展に大きな可能性を秘めた若手会員が、奮って応募されることを期待します。

「受賞の喜び」

研究課題:細胞療法によるあたらしい表皮水疱症治療の開発



北海道大学病院
皮膚科

藤田 靖幸
(78期)

この度は名誉ある平成25年度フラテ奨励研究賞を頂き、大変光栄に存じます。受賞に際しまして、選考委員および同窓会の諸先輩方、皮膚科学分野の清水宏教授、阿部理一郎准教授、および研究室の皆様にご心より御礼申し上げます。私の研究テーマは、表皮水疱症というまれな皮膚疾患です。先天的に皮膚の構造蛋白に異常や欠損があるために、生下時から全身に水疱やびらんを作ります。現時点で根本的な治療は無いため、日常生活を含めた皮膚ケアから将来的な皮膚癌発症のモニタリングまで、広い目で診療にあたる必要があります。このように表皮水疱症の患

者さんと触れ合っている中で、少しでも私に出来ることはないか、という思いが研究の原動力になっています。大学院では、幹細胞による治療可能性について研究を行いました。骨髄由来の幹細胞が皮膚を構成する細胞に分化し、臨床的に治療法として有効であることを、表皮水疱症モデルマウスなどを使って明らかにしました。また近年、表皮水疱症の一部の皮膚で、後天的に遺伝子変異が正常化する現象(復帰変異モザイク)が明らかになってきました。「自然の力による遺伝子治療」とも言えるこの現象を治療に最大限応用できないかと、患者さんの協力を得ながら、基礎/臨床の両側面から検討を進めています。現在は、パッチ植皮や培養表皮シート移植治療の自主臨床試験を目指しつつ、iPS細胞も含めた新規細胞療法の可能性を探索しています。今回の受賞を励みとして、この難治性疾患の患者さんに対してより良い医療が提供できるよう邁進する所存です。今後とも何卒よろしく願い申し上げます。

研究課題:近赤外蛍光イメージングを応用した腹部手術の安全性向上に関する研究



社会医療法人恵佑会
札幌病院
(消化器外科学分野II)

芦立 嘉智
(80期)

このたびは大変栄誉ある賞をいただき誠にありがとうございました。同窓会の諸先輩方、関係各位に厚くお礼申し上げます。私は2004年に北大を卒業し、2008年に大学院に入学、2009年より縁があって、アメリカマサチューセッツ州のボストンのフランジオーニ博士が主宰されていたCenter for Molecular Imagingで4年間の研究留学をさせていただきました。同施設は、ハーバード大学の教育病院でもあるベスイスラエルディーコネスメディカルセンター内に設置されております。「Seeing is Curing(癌の早期発見により、治癒を目指す)」をモットーに、近赤外蛍光

イメージングシステムの開発、近赤外蛍光色素の開発、イメージングシステム、色素を実際に動物に使用することなどを中心に研究を行っております。自分の役割は、これらのシステムをどのような形で臨床応用できるか、特に、いかに臨床の手術に応用できるかという観点で研究をしてきました。従いまして、自分の研究テーマを一言で言い表すと、「近赤外線イメージングカメラによる術中イメージング」となります。渡米当初は、これまで研究の経験がなかったこと、また英語の能力も不十分であったことから、仕事、生活の両面で大変な思いをしました。アメリカの同僚、平野聡教授をはじめとする消化器外科学分野IIの先生方の支えもあって、何とかこのような賞を頂けるような研究成果を残すことができました。

今回の受賞は私にとって大きな励みとなりました。今後も臨床、研究に精進し、微力ながら医学の発展に少しでも貢献できればと考えております。

研究課題:心筋障害・心筋リモデリングにおけるNADPH oxidaseの役割の解明



北海道大学病院
循環器内科

松島 将士
(会員2)

この度は平成25年度フラテ研究奨励賞を頂き誠にありがとうございました。私は九州大学を卒業後2005年より北海道大学大学院医学研究科に大学院生として異動し、筒井裕之教授ご指導のもと北海道大学にて循環器診療および臨床、基礎研究に従事しております。今まで心不全・心筋リモデリングにおける酸化ストレスの役割についての研究を行ってきました。あらゆる心疾患の終末像である心不全の病態生理においてミトコンドリア由来の酸化ストレスが重要な役割を果たすことが知られております。現在は心筋のミトコンドリア

に多く存在するNADPH oxidase4に着目し、心不全における酸化ストレスとミトコンドリア形態異常に関する研究を行っております。これまで酸化ストレスの制御による心不全治療は確立しておらず、酸化ストレスの過剰な制御はむしろ有害であることが分かってきました。本研究を通して酸化ストレスの最適化というコンセプトによる心不全治療の確立を目指しております。

北大出身ではない会員にも広く門戸を開いていただき、今回このような賞をいただきましたことはこれからの研究の励みになります。今後はこれまで行ってきた研究をさらに発展させ、研究のための研究ではなく臨床に応用できる研究を目指して頑張っていきたいと考えております。同窓会の諸先輩方におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

研究課題:若年期特有のうつ病や不安障害に関連する新たな分子・神経回路・行動メカニズムの探索とその発達成熟機構の解明



医学研究科
神経薬理学分野

吉田 隆行
(会員2)

この度はフラテ研究奨励賞を賜り誠にありがとうございました。

「ストレス社会」といわれる昨今、気分障害(うつ病)や不安障害などの「こころ」の疾患が社会問題化しています。私は、「不安や恐怖記憶に関連する情動メカニズム」に関する動物実験において、以下の研究を行ないました。

ストレスに対する生体防御機構の調節に重要な役割を果たしている2種類の神経伝達物質である「セロトニン」と「γ-アミノ酪酸(GABA)」を同時に合成できる特殊な神経細胞が背側縫線核に存在し、ヒトの幼年期に相当する時

期に特異的に発現することを発見しました。さらにこの神経細胞は、新奇環境下で生じる軽度な不安に対して活性化しやすいことを明らかにしました。

また、不安や恐怖記憶を制御し、うつ病の発症にも関連する脳部位である扁桃体において、大麻に類似した物質(カンナビノイド)が合成され、神経細胞に情報伝達される入力信号に対してブレーキかける仕組みを発見しました。さらにこの扁桃体には、カンナビノイドを効率よく合成し伝達するために機能特化した特殊な形のシナプスが存在することを世界で初めて発見し、扁桃体神経細胞の活性化が不安や恐怖記憶の消去に関わる可能性を見出しました。

現在私は、不安や恐怖記憶に関する情動メカニズムに関して、電気生理学ならびに神経解剖学的研究手法に加え、行動薬理学的手法を組み合わせ、「神経細胞から行動まで」の不安調節機序を補完できる研究に挑戦しています。今後も脳神経科学分野の研究において、北海道大学医学部同窓会の若手研究者として邁進していきます。

新世紀の医学に向けて (24)

陽子線治療センター



白土 博樹 (57期)

最先端研究開発支援プログラムのご支援を得て、5年弱で研究開発してきた世界初の動体追跡装置に同期した小型スポットスキャン陽子線治療装置が完成し、ついに平成26年3月19日から、一人目の治療を開始することができた。現在、道内外からの患者の臨床試験が順調に進んでおり、夏か秋から、先進医療を提供できる予定である。

治療施設は北海道大学が建設し、陽子線治療センターとして北海道大学病院の一部となった。褐色の壁面を病院の正門側から見る事ができる。内部はどうなっているかという、敷地面積の約70%は装置であり、1階から2.5階の高さは、加速器やビームの輸送系で占められている。その上は電気室と機械室となっており、医療機器としては巨大である。これでも、従来の陽子線治療装置に比べると、容積として50%以下に小型化されている。さらに、本施設はガントリー（治療室）を一か所としたため、いままでの粒子線治療センターに比べると格段に小型化されている。

残りの30%が診察と医師や研究者の移住空間となっている。2階レベルで病院と空中廊下で繋がっている。自動ドアを抜けてセンターに入ると、まずやわらか

い木目の床と白い壁が新鮮である。左手に患者受付があり、その奥に患者待合がある。同窓会の堀田彰一先生からご尊父のご遺産を寄付していただき、センター内部の調度品の多くはその寄付金をもとに調達された。待合室の椅子は北海道産の木で作られ、ソファのレザーは北海道大学の緑色を使っている。来賓者のために、格調高い応接室も作らせて頂いた。待合室から見える吹き抜け階段には、大きな窓一面に粒子をイメージした壮大な和紙「タベストリー」が飾られている。その横の白い壁には、日立製作所が札幌出身の川村隆会長の指示で寄付してくれた、光、生体内の動き、北大内の季節の移ろいなどをイメージした「光のモニュメント」が投影されている。これらが、治癒を願う患者さんのために、静かな時間と気品ある空間を作り出している。

患者待合から1階の治療室へは、その吹き抜け階段あるいはエレベーターで降りる。1階は更衣室、治療室、診察室があり、こども木目の床や壁で、落ち着いてゆったりとした空間となっている。細かい配慮としては、治療室のドアが、従来の放射線治療室のような重たい扉ではなく、薄いドアであるうえにガラスのスリットが入って、患者さ

んに閉塞感を与えていない。これは、実は、3次元モンテカルロ防護計算法を防護壁全体に活用しているからできたことで、日本の陽子線治療施設初の何気ない最先端技術である。

スタッフ用には、1階に治療装置の操作室、加速器の運転室、開発室、2階に治療計画室、3、4階には研究室やカンファレンス室、スタンフォード大学等との共同研究室（公用語は英語）、機械工作室、倉庫、加速器運転員室などがある。

さて、装置を使ってみると、スポットスキャン陽子線治療は、思った以上に素晴らしい。従来の粒子線治療とは違い、腫瘍の形に合った線量分布を自由に作ることができ、どの方向からも治療が可能である。治療室では、スポットスキャン方式のため、技師は装置に特別な器具を付ける必要がなく、まったくスムーズな治療が可能である。照射範囲は従来機では15×15cmが上限であったのが、30×40cmまで可能である。患者さんは寝台に腰を下ろし、横になったあとは治療が終わるまで20～30分間、寝ているだけである。まだ、治療患者数は10名程度であるが、頭のてっぺんから足の先まで、

X線治療よりも副作用が少なく、重粒子線治療よりも自由度の高い治療ができそうである。先進医療のため、患者負担はひとり250万円相当となるが、多くの場合、その価値は十分ありそうである。各健康保険会社が提供する毎月千円未満の負担で済む先進医療特約に加入しておく、今のところ本治療を無料で受けられるので、自分も加入している。

米国では、陽子線治療への保健収載が日本よりも進んだことが追い風となり、北海道大学の小型加速器による陽子線治療装置が、世界的ながん治療施設であるロチェスターとアリゾナのメーヨークリニックや、メンフィスのセントジュード小児病院に導入され、来年度から開始される。これらの医療施設からは、共同研究の依頼があり、何度も北大を訪れている。スタンフォード大学は、同装置を活用した共同研究のために、長期に渡る北大への研究者派遣を予定している。我々の研究成果が世界に拡がることを祈っている。

あとは、ひとりひとりの患者さんを、全力で丁寧に診療することに集中したい。今後とも、ご支援のほど、よろしく願います。

エルムの仲間達へ④



中川 貴史 (78期)

私は、人口3,000人台の後志管内にある寿都町の町立寿都診療所所長として勤務しています。医師は私も含め4名体制であり、365日24時間、1次～3次まですべての患者の初期診療をはじめ、急性期、慢性期、終末期などを幅広く担当し、19床の入院病床管理、数十名に訪問診療も行っています。医師は後述する医療法人 北海道家庭医療学センターの職員でもあり、私は同センターの理事として医師30数名、と道内外9つの医療機関を動かしている組織の運営の一翼も担わせていただいています。

そもそも私は北大医学部を2002年に卒業後、室蘭市にある日鋼記念病院にて初期研修を行いました。日本国内で家庭医の養成をいち早く手掛けた施設として全国的に有名でもあり、私にとっては必然的な決断でした。当時はまだ臨床研修が必修化される前で、医局に残らず市中病院へ研修に出るのはどちらかという異例なキャリアであったようです。

そもそも私が寿都町、ならびに北海道家庭医療学センターで行っている家

庭医療とは、決して目新しい医療ではありません。地域の人々が抱えている健康問題を幅広く包括的に扱うことをいわず、医療機関内のスタッフはもちろん、外部の組織、すなわち専門医療機関の先生たちや介護福祉関連、保健機関などの多職種とチームを組み診療にあたる医療です。その結果として患者、家族から身近な存在として継続した関わりを行え、人間同士の深い関係性を育めるのではないかと期待しています。さらには、患者一人ひとりに対する個別のケアのみならず、地域力を高め、結果巡りめぐって個人へのケアの質が向上することを期待し、地域コミュニティケアも積極的に行うよう努めています。例えば、地域での健康講座に始まり、学校医としてWHOの提唱する青少年のライフスキル教育などにも関わりを持ったり、警察と協力して診療所内で交通事故を防止するための活動を実施するなど幅広く健康レベルを向上させる活動を行っています。

北海道家庭医療学センターでは上述のような家庭医療の実践だけではなく、後進の育成、ならびに国、道での家庭医療の発展への貢献を目標に掲げ日々活動を行っています。診療面では北海道内の7つの診療所をはじめ、滋賀県、福岡県の医療機関を直接運営、または業務契約を行い診療しています。

また、良質で地域で求められる家庭医療専門医になるための教育を行い、現在では初期研修医への支援をはじめ、3年間の後期研修、その後2年間のフェロシップを実施しています。後期研修はプライマリケア連合学会の認定後期研修プログラムに準拠し、フェロシップでは診療レベルの向上、後進の教育、経営を含めた医療機関の運営スキル、さらには家庭医療の研究を学ぶ2年間としています。また発展への貢献としては地元での活動全般のみならず、北海道庁などとの議論をはじめ、学会といった学術団体との連携をもとに現在注目されている総合診療医関連での業務を当センターのメンバーと共に進めています。

話は変わり北大生時代にはバスケットボール部に所属していた私は、日々ボールを追いかけ、ゴール目指し頑張っておりました。しかし、諸先輩たちからは「やる気がないなら帰れ!」、「そんなんじゃない、まだまだ、走れ!」などと指導を受け、時にボール、ときに足が飛んでくる日々でした（最近では大きな問題になりそうですが、当時はある意味当然とも捉えていました）。しかし、その後に必ず愛情を感じるフォローをして頂いたものです。スポ根ではありませんが、その当時に得たひた向きさは良くも悪く

も自分の中に生き続けているのでしよう。現在では体はあまり動かしていませんが、体育会系魂が自分を後押ししてくれています。また、何より自由な北大の校風は私に挑戦することの勇気を与えてくれたような気がしています。

休日の過ごし方という、夏は家庭医として共に頑張ってくれている妻や子供たち、診療所の仲間たちとキャンプ、バーベキュー、カヌーなどをしたり、冬は町営スキー場で子供と共にレッスンを受けては、ニセコ、ルスツの世界的に有名なスキー場で思いっきり楽しみながら地方暮らしを謳歌しています。

家庭医療という未だマイナーな領域ではありますが、私が医師になった当時から着実に認知度が増し、地域住民からの必要性が増しているこの領域を生業とし、皆様から信頼され、専門診療科と協働し質の高い医療が提供できるよう研鑽を積んでいきたいと思えます。また、家庭医療がこの国に根付くよう微力ではありますが努力してみたいと思えます。このような若輩者ではございますが、これからも皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしく願ひ申し上げます。

理事会・評議員会報告

理事会

日時：平成26年3月31日（月）
午後6時から午後6時54分
場所：医学研究科 大会議室
出席者：理事9名、監事、
評議員会議長、副議長

評議員会

日時：平成26年3月31日（月）
午後7時から午後8時2分
場所：医学研究科 中研究棟
3階セミナー室
出席者：評議員、予備評議員62名
(出席15名、委任状提出47名)、
理事、監事

〔報告事項〕

- 庶務、事業報告について
浅香会長から次のとおり報告されました。
・平成25年度総会を2月10日に開催し、会則の一部改正、平成24年度決算、同監査報告が了承されたこと。
・総会終了後、平成25年度フラテ研究奨励賞授賞式を実施したこと。

- ・授賞式終了後、第90期新入会員歓迎会を開催したこと。
- 2. 編集報告について
田中編集担当理事から次のとおり報告されました。
・同窓会新聞は、昨年6月に第145号、10月に第146号、本年1月に第147号を発行したこと。
・昨年12月に同窓会誌を発行したこと。
・昨年8月にホームページをリニューアルして、「同期会・各地区フラテ会のお知らせ」のウインドウ、「メディア情報」のバナーを設けたこと。

〔協議事項〕

- 評議員、予備評議員の選出について
各期から選出された平成26、27年度の評議員・予備評議員が、審議了承されました。
- 評議員会議長、副議長の選出について
議長に南 勝評議員（40期）、副議長に工藤俊彦評議員（46期）が選出されました。
- 役員（理事、監事）の選出について
・鈴木重統役員選考委員会委員長（39期）から、同委員会が選考した平成

- 26、27年度の役員候補者（理事13名及び監事2名）の選考経緯及び選考結果について説明の後、審議了承されました。
- 次いで新理事による会長選出会議を行った結果、新会長に浅香正博理事（48期）が選出された旨報告されました。
- 浅香新会長から、新副会長に橋本紘治理事（47期）及び寺沢浩一理事（54期）、会計担当理事に吉岡充弘理事（60期）、編集担当理事に田中伸哉理事（66期）を指名した旨報告されました。
- 平成25年度会計中間報告について
吉岡会計担当理事から、本年3月10日現在の平成25年度会計収支状況、特別会計預金状況及び会費納入状況について説明の後、審議了承されました。
- 平成26年度会計予算（案）について
吉岡会計担当理事から、平成26年度会計予算（案）について説明の後、審議了承されました。
- 寄付金受入取扱要項の一部改正に

- ついて
- ・浅香会長から、要項第3条の寄付の受入可否を理事会が決定する現行規定を、寄付申し込みに対して迅速に対応するために、会長、副会長及び会計担当理事の決裁により決定することに改正したい旨説明の後、審議了承されました。
 - ・浅香会長から、10万円以上の寄付者にはお礼状に代えて楯に寄付者名、御礼の文章を刻んで贈ること。寄付者が額を希望する場合は額を、同一人または団体による複数回の寄付があった場合は、その都度贈呈することにより感謝の意を表すことにしたい旨説明の後、審議了承されました。
 - 7. 学生を会員とすることに伴う諸事案について
浅香会長から、本年4月より学生が在学中から同窓会に加入することに伴う諸事案への対応について説明の後、審議了承されました。

新役員、評議員・予備評議員名簿

任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日

〈理事・監事〉

役職	氏名	期	勤務先
会長	浅香 正博	48	北大大学院医学研究科 がん予防内科学講座 特任教授
副会長	橋本 紘治	47	橋本耳鼻咽喉科医院 院長
	寺沢 浩一	54	北大大学院医学研究科 法医学分野 教授
会計理事	吉岡 充弘	60	北大大学院医学研究科 神経薬理学分野 教授
編集理事	田中 伸哉	66	北大大学院医学研究科 腫瘍病理学分野 教授
理事	長瀬 清	40	北海道医師会 会長
	松谷有希雄	51	国立保健医療科学院 院長
	櫻木 範明	52	北大大学院医学研究科 生殖内分泌・腫瘍学分野 教授
	佐久間一郎	55	社会医療法人社団 カレスサッポロ北光記念クリニック 所長
	笠原 正典	56	北大大学院医学研究科 分子病理学分野 教授
	大場 淳一	58	市立旭川病院 胸部外科 副院長
	小笠原和宏	59	釧路労災病院 外科 副院長
	新藤 純理	64	市立釧路総合病院 泌尿器科 部長
監事	小山 司	49	医療法人重仁会 大谷地病院 臨床研究センター センター長
	桜田 教夫	専7新	医療法人社団洞仁会 洞爺温泉病院

〈編集委員〉

役職	氏名	期	勤務先	
委員長	田中 伸哉	66	北大大学院医学研究科 腫瘍病理学分野	
委員	山科 賢児	55	やましな内科クリニック	
	南須原康行	64	北海道大学病院 医療安全管理部	
	樋田 泰浩	67	北海道大学病院 循環器・呼吸器外科	
	神島 保	70	北大大学院保健科学研究所 医学生理工学分野	
	石田 雄介	75	北大大学院医学研究科 腫瘍病理学分野	
	木佐 健悟	80	倶知安厚生病院 総合診療科	
	棚橋 祐典	66	旭川医科大学医学部 小児科学講座	
	田中 敏	71	札幌医科大学医学部 病理学第二講座	
	顧問	長瀬 清	40	北海道医師会
		橋本 紘治	47	橋本耳鼻咽喉科医院
寺沢 浩一		54	北大大学院医学研究科 法医学分野	
佐久間一郎		55	社会医療法人社団 カレスサッポロ北光記念クリニック	
柿崎 秀宏		59	旭川医科大学医学部 腎泌尿器外科学講座	
當瀬 規嗣		60	札幌医科大学医学部 細胞生理学講座	

〈評議員・予備評議員〉

評議員会議長：南 勝（40期）、副議長：工藤俊彦（46期）								
期	評議員	予備評議員	期	評議員	予備評議員	期	評議員	予備評議員
15	小野 淳信		47	田川 義継	本間 研一	75	三山 博史	夏井坂光輝
16	音羽 博次		48	松野 一彦	小笹 茂	76	柳生 一自	加納 崇裕
18	大村 茂夫		49	川口 秀明	安達 一幸	77	畑中佳奈子	武重宏呂修
19	小野 基		50	小林 清一	福田 公孝	78	梅田 弘胤	深谷 進司
22	松野 誠夫		51	佐藤 直樹	武蔵 学	79	庄野 雄介	齋藤 晶理
23	佐々木裕雄		52	福田 論	菊田 英明	80	木佐 健悟	松島 理明
24	竹村 敏雄	飯田 正一	53	渡邊 正夫	松下 卓郎	81	那須 裕也	久保田玲子
25	吉田 長平	小菅 高之	54	吉田 純一	竹林 武宏	82	伊東 慎市	
26	竹内 隆	七戸 幸夫	55	田代 典夫	山科 賢児	83	清水 智弘	井平 圭
27	池端 隆	井門 英明	56	武田 宏司	西澤 典子	84	庄司 哲明	横畠 絵美
28	三浦 旭	柳澤 守	57	白土 博樹	秋田 弘俊	85	河野 修	辻岡 孝郎
30	岸本總一郎	平山 亮夫	58	牧瀬 則子	古御堂 均	86	西本あか奈	
31	北浜 恵三	長井 侃	59	松野 吉宏	鈴木 康夫	87	荒木 大	川島 圭介
32	高下 泰三	景山 正晴	60	山本 有平	當瀬 規嗣	88	福田 直樹	大場 彩音
33	能中 陽一		61	佐藤 典宏	後藤田裕子	89	脇田 雅大	水門 由佳
34	多米 豊	坂岡 博	62	川浪 貢		90	山村 貴洋	白鳥 里佳
35	田島 邦好	小池 章之	63	加藤千恵次	石川 岳彦	96	伊林 諒	
36	近藤 浩	高杉 佑一	64	加藤 正仁	小川 秀彰	専1	河村 弘司	
37	後藤 康之	浅野謙一郎	65	小谷 晃司	森田 研	専2	三部 重喜	吉野 克己
38	牧野 勲	山本 惇	66	鈴木 清護	尾島 裕和	専3	橋本 秀夫	難波真木二
39	鈴木 重統	鎌田 覚	67	矢部 一郎	増谷 学	専4	鈴木 功	吉尾 弘
40	南 勝	阿部 和厚	68	南場 研一	古本 智夫	専5	佐藤 雅夫	高橋 尚克
41	富樫 武弘	江端 英隆	69	外丸 詩野	中島 泰志	専6旧	山岸 薫	
42	小林 邦彦	山下 幸紀	70	相澤 寛志	三浦 淳	専6新	西 博	
43	三上 一成	関谷 千尋	71	西原 広史	山田 崇弘	専7旧	斎藤 秀夫	三野 昭三
44	中村仁志夫	石橋 輝雄	72	小林 徹	泉山 康	専7新	露口 幹彦	
45	宮坂 和男	藤 建夫	73	西田竜太郎	野呂 紀子	会員2	渡邊 雅彦	藤田 博美
46	工藤 俊彦	大宮司 信	74	近 祐次郎	田代 淳			

北大ほっかいどう同窓会の発足

2014年4月18日に北大ほっかいどう同窓会が会員326名で発足しました。会の設立総会に先立ち、クラーク会館大講堂においてノーベル賞を受賞された鈴木章先生の基調講演、同窓会設立記念鈴木章

先生を囲む座談会が林美香子氏の進行役のもと、近藤龍夫氏が登壇し開催されました。その後クラーク会館で懇親会が会長の近藤龍夫氏、副会長の横山清氏の挨拶、副会長の齋藤和雄先生（医学部35

期）の乾杯ではじまりました。2時間にわたり歓談が行われ、北海道の地で北大同窓生があらためて結束を強めて行くのではないかと確認されました。活動はまずはじめはインターネットを経由したネットワーク作りからはじめ、人と人とのつながりを大切にしようということが当面目標です。会の最後は参加者約100名での都ぞ弥生の大合唱で締めくくられました。

医学部からは副会長に齋藤和雄先生（35期）、評議員として長瀬清先生（40期）、安田和則先生（52期）、吉岡充弘先生（60期）、田中伸哉先生（66期、医学部代表）の5名の先生が名を連ねています。

入会は「北大ほっかいどう同窓会」のホームページからお願いします。

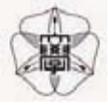


懇親会の様子
左より横山清副会長（水産学部）、齋藤和雄副会長（医学部35期）、鈴木章（理学部）、田中伸哉（医学部66期）



都ぞ弥生の合唱風景

北大連合同窓会からのお知らせ



学生支援の「北海道大学カード」

北大人の証明

北海道大学連合同窓会が発行する「北大カード」は、北大人としての証です。
（北大同窓生、在学生父母及び教職員限定）

一般カードは年会費永久無料！！
《ゴールドカードを除く》

一般カード



ゴールドカード
年会費10,000円（税抜）

カードの利用額に応じて携帯手数料がカード会社から還元されます。これを「学生支援資金」として奨学金などの学生支援に活用します。

特典

附属図書館の入館証
植物園の無料入園証
北大カード協力店の割引・優待
北大出版会書籍割引
希望者へ結婚式への祝電サービス
（総長・連合同窓会長連名による）
カード会社からの各種サービス など
（詳細は申込書等をご覧ください。）

お申込について

1. 専用の申込書をご請求ください。専用申込書を送付いたします。
2. 専用申込書に所定事項を記入・捺印いただき、ご投函ください。
3. カード会社の審査を経て、お申込から約1ヶ月後にカード会社から配達記録郵便にてご自宅までお送りいたします。

申込書ご請求先

北海道大学連合同窓会事務局（北海道大学総務企画部広報課）
〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
電話：011-706-2012
E-mail: kouhou2@jimuhokudai.ac.jp
※UCカードのホームページからも、申込書を請求できます。
（ホームページ下部の「資料請求」からお進み下さい。）
(<http://www2.uccard.co.jp/join/college/hokudai.html>)

告知板

<学内・院内人事異動>

<辞職>

平成26年3月31日 近藤 琢磨(70期) 内科Ⅱ助教(医療法人糖和会近藤医院院長)
首藤 聡子(68期) 婦人科助教(北海道がんセンター)
中馬 誠(69期) 消化器内科講師
(横浜市立大学附属市民総合医療センター准教授)
橋本 直樹(76期) 精神医学分野助教
久保田 卓(70期) 循環器・呼吸器外科講師(KKR札幌医療センター)
笠原 靖彦(73期) 整形外科助教(関東労災病院スポーツ整形外科)

<任期満了>

平成26年3月31日 高野 廣子(49期) 国際連携室特任講師(北大非常勤講師)
野々村克也(51期) 腎泌尿器外科学分野特任教授(釧路労災病院病院長)
伊東 学(63期) 脊髄・脊髄先端医学講座特任教授
(北海道医療センター部長)
松本 謙(71期) 医学教育推進センター助教(北大病院医員)
小原 修幸(77期) 耳鼻咽喉科助教 (市立札幌病院)
小野寺俊輔(78期) 放射線医学分野特任助教
(北海道がんセンター放射線治療科医長)
松嶋 藻乃(86期) 神経生理学分野特任助教
(東大大学院医学系研究科特任助教)
藤田 裕美(会員2) 病理部特任助教(国立がん研究センター中央病院)

<採用・再雇用>

平成26年2月17日 菊地 英毅(73期) 内科Ⅰ助教
平成26年4月1日 佐藤 直樹(51期) 手術部特任准教授
北市 雄士(72期) 医学教育推進センター助教
佐藤 大介(74期) 医学教育推進センター助教
本多 昌平(74期) 消化器外科Ⅰ助教
宮本 憲幸(74期) 分子追跡放射線医療寄附研究部門特任助教
青柳 武史(75期) 消化器外科学分野Ⅰ特任研究助教
小野澤真弘(75期) 医学教育推進センター助教
柿坂 達彦(75期) 消化器外科学分野Ⅰ特任研究助教
加藤 達矢(75期) 婦人科助教
柳生 一自(76期) 児童思春期精神医学講座特任助教

木下留美子(77期) 放射線治療科助教
新宮 康栄(77期) 循環器・呼吸器外科助教
瀧山 晃弘(77期) 探索病理学講座特任助教
秦 洋郎(78期) 皮膚科学分野特任研究助教
猪又 崇志(79期) 医学教育推進センター助教
内田 洋介(80期) 麻酔・周術期医学分野助教
神田 敦宏(会員2) 眼科学分野特任研究講師
平成26年5月1日 夏井坂光輝(75期) 消化器内科学分野特任研究助教
加藤 亮子(79期) 麻酔科助教

<昇任>

平成26年2月1日 北村 信人(69期) スポーツ医学分野准教授
平成26年3月1日 遠藤 知之(70期) 血液内科講師
平成26年4月1日 小野寺智洋(75期) 整形外科講師
平成26年5月1日 大西 俊介(70期) 消化器内科講師

<配置換え>

平成26年3月1日 近藤 健(67期) 血液内科学分野講師
平成26年4月1日 若狭 哲(75期) 循環器・呼吸器外科学分野助教
高畑 雅彦(73期) 整形外科分野講師
加納 里志(75期) 耳鼻咽喉科助教

<出向(休職)>

平成26年4月1日 佐藤 智信(73期) 小児科特任助教 (北見赤十字病院)
石田 雄介(75期) 高度先進医療支援センター特任助教(釧路労災病院)
佐藤 暢人(77期) 消化器外科Ⅱ特任助教(市立釧路総合病院)
三井 信幸(79期) 精神科神経科特任助教(市立稚内病院)
白鳥 聡一(80期) 血液内科特任助教(市立函館病院)
茂木 洋晃(80期) 脳神経外科特任助教(苫小牧市立病院)

<出向(復帰)>

平成26年4月1日 穂刈 正昭(74期) 脳神経外科特任助教
石川 聡司(78期) 産科特任助教
中野 史人(79期) 神経内科特任助教

＜教授就任挨拶＞

東北大学 大学院 医学系研究科・医学部
社会医学講座 医療管理学分野
藤森 研司

60期卒業の藤森です。生まれてこの方、留学以外には北海道を出ることはありませんでしたが、縁あって仙台の住民となりました。卒業と同時に、新設されました核医学講座に進み、四半世紀余り北海道大学、札幌医科大学で放射線科医として勤めてきましたが、徐々に病院運営や医療政策に実務として係るようになり、ついには社会医学への道を進むことになりました。皆様には大変お世話になりましたが、同窓会会長でもある浅香先生のがん予防内科学の客員にいただきましたので、しばし札幌と行き来する生活になります。これからもどうぞ宜しくお願いします。

神奈川フラテ会はこれまで総会・懇親会の時県内の同窓による学術講演を聴く会を開催してきたが、今年から学生も招いて開催することにした。目的の一つは県内医療機関への紹介のためだ。これらを行うことは同窓会としての本来の目的を果たすことと我々は考えている。一方最近の社会情勢の中で製薬会社は医療用医薬品製造販売業協会を作り医師との関係に厳しい規程を定めた。特定の医師集団や医療機関との癒着を防ぐことを目的としたものだ。そのためこれまでのように一社に支援を要請することは不可能になったが、会の時懇親会以外の経費を複数の会社に協賛依頼することは可能なが分かったのでその部分、講師への十分な謝礼と学生を招待するための経費などを協賛依頼することにした。

★医学部40期卒業50周年記念同期会の案内

場所：札幌市中央区北2条西1丁目1-1
ニューオータニイン札幌
(TEL:011-222-1111)

開催日：本年6月14日（土曜日）
北海道神宮祭の宵宮にあたります。
午後6時に集合写真撮影後、懇親会。二次会も同所。

会費：懇親会、写真代、二次会費、招待費用込みで1万5千円。

幹事：長瀬 清、広田 昭紀、南原 康二、南 勝

★北大医学部45期卒業45周年同期会

今秋、卒業後45周年の同期会を以下の要領にて開催します。是非ご参加下さいますようご案内致します。

日時：平成26年10月11日（土）18時～

＜神奈川フラテ会の活動＞

そのためには次の準備が必要だった。“会”の名称を「神奈川フラテ病診・診々連携の会」とし、会則と名簿を作成し、世話人と収支報告書作成のための監査人（税理士）を置き、口座を開設した。なお会員は入会金と会費を納めること、協賛額は経費の50%以内という厳しい規定がある。その上で会則と名簿、趣意書、収支計算書を要望書に添えて協賛を依頼した。

協賛を多数の会社に依頼しなければならないが、我々が同窓会本来の目的と考えたことを実行するために敢えて行うこととし、世話人の努力によって“会”を開催できることになった。

横浜市出身の北大医学部と薬学部の学生に参加を呼び掛けた。彼らは親子3人が世話人の患者でもあるので出席を快諾

＜同期会案内＞

場所：洞爺湖万世閣ホテル
レイクサイドテラス
＜住所＞北海道虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉21、TEL:0142-73-3500＞

参加費：25,000円（予定）
出欠に関する連絡は、後刻郵送させて頂きますが、上記日程を手帳にお書留ください。

＜連絡先＞twarabi@mue.biglobe.ne.jp＞
幹事：岸、宮坂、宮田、蔵

★北大医学部50期同期会のご案内

卒業40周年記念同期会を以下の要領にて開催致します。50期会事務局も北大最後の年となりますので、会員の皆様是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

日時：平成26年9月27日（土）

午後6時～受付

してくれた。今後彼らを軸として学生の参加者が増えることを期待している。

現在次のメンバーが世話人を務めている。（世話人代表）仁保正和 仁保耳鼻咽喉科医院（副代表）武宮省治 元神奈川がんセンター院長 市川靖史 横浜市大がん総合医科学教授（世話人）力石辰也 聖マリアンヌ医科大腎泌尿器外科学教授 折館伸彦 横浜市大耳鼻咽喉科学教授 根本浩一郎 平成横浜病院内科 古屋充子 横浜市大分子病理学部門准教授 前田慎 横浜市大消化器内科学教授

教育の真髄は「マン ツウ マン」で初めて行われると考えているが、県内各医療機関の長は人としても優れているので学生は後悔しないだろう。

今年の総会は次の日程で開かれる。

場所：京王プラザホテル札幌1F
ガラスシーズンズ

既にご案内状を郵送しておりますので、詳細はそちらをご覧ください。まだ出欠のご返事をされていない場合には、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

50期会会長 三橋公美

事務局 小林清一

（連絡先：koba@hs.hokudai.ac.jp）

★65期卒業25周年記念同期会のお知らせ

平成26年11月2日（日）に札幌にて開催いたします。詳細はメールリストほかにて通知します。メールリスト未登録で参加を希望される方はscmed@live.com（オダニ）まで10月20日（月）までにご連絡下さい。

「平成26年度神奈川フラテ病診・診々連携の会」

期日 7月26日（土）16時～20時

会場 崎陽軒本店 会費1万円

講演 「この20年の間に“緩和ケア”はどのように変わったか」

講師 横浜市立市民病院緩和ケア

内科部長 国兼浩嗣先生

出欠連絡先

市川靖史

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9

横浜市立大がん総合医科学講座教室

Tel：045-787-2623 Fax：045-787-2740

フラテ会員の皆様には活動の参考になることと思い、神奈川フラテ会員の皆様にはご出席を願って記した。HP:「神奈川フラテ会」の案内もご覧ください。

（文責 仁保）

ご寄付ありがとうございました

同窓会事業支援のため、次の方々よりご寄付をいただきました。
平成26年1月15日 医学専門部6期（旧）
金谷 寛様 金50,000円
平成26年4月10日 小林病院
小林達男様 金500,000円
以上、ご報告申し上げます。誠に有り難うございました。

ご寄付のお願い

同窓会では、企業、団体、個人の皆様に、同窓会事業支援のためのご寄付をお願いしております。

いただいたご寄付は特別会計で積み立てており、使途については理事会及び評議員会で慎重に検討し、学生への奨学支援、教員への研究助成、平成31年に迎える医学部創設100周年記念事業支援など、同窓会事業、医学部事業に有意義に活用させていただき所存でございますので、

よろしく願い申し上げます。

なお、ご寄付をいただいた方は、ご了承を得て同窓会新聞で紹介させていただきます。同窓会へのご寄付につきましては、同窓会事務局にご連絡ください。

高額のご寄付に対して

本年3月に開催された評議員会で協議した結果、1件10万円以上ご寄付をされた方には、従来のお礼状に代えて楯または額入り感謝状を贈呈させていただきましたことに致しました。



同窓会費納入のお願い

会員の皆様には平素より同窓会の運営に格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ご承知のとおり同窓会は北海道大学医学部医学科、北海道大学附属医学専門部及び樺太医学専門学校の卒業

業者並びに北海道大学医学部医学科在籍者、卒業生以外の北海道大学医学部医学科の教員並びに研究者で入会を希望する方々により組織し、事業は会員の皆様の会費を原資として運営されています。

同窓会が行っている主な事業としては、年3回の同窓会新聞の発行、隔年の同窓会会員名簿と同窓会誌の発行、新入生合宿研修、医学展、学生懇話会、卒業祝賀会など学友会への経費支援、同窓生、学生の父母などに参加し

ていただくフラテ祭への経費支援、若手研究者の研究助成など多岐にわたっています。

これらの同窓会事業を一層充実・発展させるため、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

同窓会費未納者に対する重要なお知らせ

同窓会ではこれまで会費の完納・未納の区別なく全ての会員に同窓会新聞、会員名簿、同窓会誌を発行の都度お届けしていましたが、不公平であるというご指摘を受けていました。そこで平成25年11月に開催された評議員会

で協議した結果、平成26年度からは、過年度会費が2年を超える会員には会員名簿及び同窓会誌の送付を停止することになりましたのでご注意ください。

なお、該当する会員は本年9月30日までに会費の納付をお願いいたしま

す。9月30日以降に納付された場合は会費納入状況確認手続きの都合により、本年末発行の会員名簿を送付することができませんのでご了承ください。

同窓会費の納付方法を変更いたしました

これまで同窓会費は郵便局で払い込んでいただいていたのですが、不便であるというご指摘を受けていました。そこで平成25年11月に開催された評議員会で協議した結果、平成26年度の会費からは、次のいずれかによる納付方法に変更いたしました。

1. 口座振替

- ・会員の指定する金融機関口座（ゆうちょ銀行を含む）から振替集金し、納付することができます。
- ・一度手続きをすると毎年納付する手間が省けてとても便利です。なお、口座振替日は毎年7月23日です（金融機関が休業の場合、翌営業日）。

- ・手数料はかかりません。
- ・希望する方は、同窓会事務局にお申し付けください。専用の口座指定用紙をお送りいたします。

2. コンビニで納付

- ・同窓会新聞に同封されたコンビニ払込票により、お近くのコンビニで納付してください。
- ・手数料はかかりません。

3. 同窓会の銀行口座へ振込

- ・北洋銀行、北海道銀行の同窓会口座に振り込むことができます。
- ・各銀行に備え付けの振り込み用紙をご利用ください。
- ・手数料はご自身で負担してください。
- ・同姓同名の混乱を避けるため、**氏名**

の前に、必ず卒業期を記入してください。

【記入例】 50キ サトウ イチロウ

- (1) 北洋銀行 北七条支店
 預金種目 普通預金
 口座番号 4022794
 口座名義 北海道大学医学部 同窓会
 連絡先 (011-706-5007)
- (2) 北海道銀行 札幌駅北口支店
 預金種目 普通預金
 口座番号 1214823
 口座名義 北海道大学医学部 同窓会
 連絡先 (011-706-5007)

平成26年度 会員名簿記載事項 確認のお願い

本年度は名簿発刊の年に当たっております。会員名簿掲載用の住所変更届は、**平成26年10月15日(水)同窓会事務局着分(消印有効ではありません)をもちまして、締切とさせていただきます。**FAXやメールでお知らせいただいても結構です。

なお、期日以降にご連絡をいただきましたとしても、名簿の印刷には間に合わない場合がございますので、ご了承くださいませよう、お願いいたします。

新刊書紹介



「いかによく生きるか 一命の選択」
大平 整爾 (38期)
医学と看護社
¥4,536

大平先生が素晴らしい本を書かれた。「いかによく生きるか—一命の選択—」(医学と看護社)である。内容は治療を中止した方が患者の最大幸福につながる場合や患者が中止を決断した時に、医療者はどう対処・立ち向かうかについての思索の軌跡である。

大平先生は今年発刊される日本透析学会の「維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」作成メンバーであり、この提言は先生なくてはできなかったと多くの人に思われている。ほとんどの人が関心を持っていなかった1993年に「慢性透析中止—透析人口の高齢化に伴う一考察」を日本透析

医学会で発表された。95年には筆者も良く参考し学んだ「高齢者の透析」を共著者として上梓され、中で「透析の拒否、継続・中止」を書かれている。以来20年。「透析をしないこと・中止すること」という重い命題について思索を重ね、研究されてこられた。時代が先生の先見の明にやっと追いついたという感慨が筆者にはある。勿論、法整備が十分でないわが国において、透析を中止するという行為は患者の意思を尊重し、十分熟慮のうえ、多人数で慎重に検討されなければならない問題である。一般に提言の文章は淡々と書かれ、事務的な感じがする。

しかし、本書と合わせて読むと、透析を止めるという試みがとても人間的な、表題の如く人間が生きることについての根源的な思索の検討であることがわかる。古今の人たちが様々な違った答えを出していることを知り、同じような局面で悩んでいる医療者は時に救われることがあるに違いない。大平先生は透析を止めることは「患者と医療者が人間の尊厳について、生について死について真剣に話し合い、まさに患者・医療者自身それぞれの人生を凝縮した一過程である」と

言っているように思える。また、この本は医学以外の文学などを幅広く読むことが医療者には大切であることを再認識させる。重い内容にもかかわらず書かれているイラストもやさしく温かく和む。是非、医師ばかりではなく、医学生、看護学生含む医療関係者に一読を勧めたい一冊である。

(53期 伊丹儀友)



「厚生労働省が医師不足を作っている」
竹村 敏雄 (24期)
文芸社
¥972

北海道を含め医師不足と偏在は日本の医療にとって喫緊の課題であり、北海道医師会や北海道庁が解決のために様々な施策を練っているがなかなか解決の道は見つかっていない。そのような時期に医師不足について大胆に論じた著書が発刊された。

筆者は1925年生まれ、非常にエネルギーで長年日本の医療に関心を持ち、いかに日本の医療制度をよくするかを考えている方である。本書は「最

新提言！新医師臨床研修制度を廃止せよ」に続く第3弾となる。

まず北海道の医師の不足の現状は2万4000人、その不足の真の原因は厚生労働省が主導した新医師臨床研修制度の義務づけにあるとする。その上臨床研修制度の欠点として新卒の医師が2年間医師免許証を使えないこと、研修医の義務づけが医師不足と偏在を引き起こしていること、国が研修医に少なからずの給与としての財源支出を行なっていることを指摘する。確かに医師不足が顕在化したきっかけは新医師臨床研修制度であるのはほぼ承知の事実であり、日本の衰退と共に日本の医療制度は崩壊に向かおうとしている。

この医師不足問題を解決のために筆者はいくつかの提言をしている。その核となるのは医学部の新設と医療機関や医師の効率集約化である。既得権益が絡む分野であるが、解決しなければならない課題である。

本書を読むと1日でも早く医師不足をなくして、崩壊しつつある日本の医療を、正常な姿に戻したいと訴える筆者の声が伝わってくる。

(55期 山科賢児)

ご逝去者 新聞146号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
平成24年 1月 5日	信 太 隆 夫	29	1月16日	吉 田 亮	専門5
10月21日	小 林 芳 三	専新7	1月19日	上 金 伸 一	63
平成25年 2月14日	岡 野 耕 三	22	1月25日	上 金 伸 一	34
9月 5日	岩 井 博 三	26	1月25日	金 田 美 守	47
10月 5日	仁 保 三 四	21	1月29日	藤 田 榮 一	25
12月16日	木 村 信 良	23	2月 2日	小 池 昭 昭	専旧6
12月16日	斎 藤 富 夫	25	2月 4日	水 島 宣 昭	専新7
12月20日	宮 田 康 邦	38	2月 6日	村 田 正 明	35
12月20日	桂 勝 明	専旧7	2月21日	久 安 正 道	28
12月24日	岩 下 眞 二	30	2月28日	櫻 木 武 武	18
12月26日	中 野 修 修	専旧6	3月 3日	小 山 武 武	39
12月30日	真 口 孝 順	28	3月 3日	小 高 武 武	専旧6
12月31日	中 村 武 武	27	3月 4日	高 道 下 俊 一	専新7
平成26年 1月 4日	加 藤 誠 誠	27	3月26日	道 谷 本 晋 一	28
1月15日	二 宮 新次郎	25	3月26日	今 忠 正 正	35
			4月 2日	金 森 晴 男	30
			4月25日	岡 五 百 理	51
			5月 7日	岡 森 信 也	20
			6月 3日	長 田 廉 平	50

同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。
http://www.med.hokudai.ac.jp/~alum-w/news/index.htm
ご意見等ございましたら、事務局までご連絡くださいますよう、お願いいたします。

一面の写真説明

「陽子線治療施設内観」
白土 博樹 (57期)

編集後記

北大医学部同窓会新聞第148号をお届けいたします。今年もフレッシュな新入会員を迎え、同窓会もますます発展することと思います。

昨年からの編集委員に加えていただいています。旭川医科大学にありますため、なかなか力になれず、心苦しい限りです。

この頃は、北大にいました時よりも、同窓会新聞をより興味深く見るようになりました。外から見ます

上：北海道大学病院陽子線治療センターの動体追跡陽子線治療装置（商品名：日立製作所PROBEAT-RT）、下：左から、診察室前、応接室、患者待合室、吹き抜け（タペストリーと光のモニュメント）。

と、改めて北海道大学医学部のすばらしさを実感しています。札幌の一等地に他学部も含めた広大なキャンパスを有する環境は、実にすばらしいことではないかと思います。まさしくUniversityといえるでしょう。北大医学部創立100周年に向けて、北大医学部がさらに発展することを一同窓生として頼もしく、また誇らしく思っています。

(66期 棚橋祐典)

印刷所 株式会社DNP北海道

〒065-0007 札幌市東区北7条東11丁目1番1号
代表(011)750-2205